2013年11月1日発行
(隔月奇数月1日発行・隔月奇数月1日発売)第26巻5号
平成10年6月4日第3種郵便認可

Nostalgic Hero

クラシックカーを愛する人へ

Impressive Classic Car Magazine
ノスタルジックヒーロー

Fairlady Z - Traveling through Time

時代を駆ける S30フェアレディZ

TOP ARTICLE●特集
フェアレディZ432／フェアレディZ-L 2by2／
フェアレディ240ZG／フェアレディZ-L／
Z432-Rレストア報告／発掘! 幻の260Z 2by2

Vol.159

第2特集
REが好き!
コスモスポーツ／サバンナRX-7 GT／コスモクーペリミテッド

注目記事
ラジエーター屋に集う 空冷パブリカ仲間たち

HOT CLASSIX
510ブルーバード +LZ14型エンジン

好評連載
日本レース史の断章 多賀弘明
エンジン屋烈伝 林 義正その2
旧車西方見聞録 インド編
日産ワークス20年の歩み ラリー編その2

EVENT
JCCA筑波ミーティング・サマー
日産ヘリテージカーフェスティバル2013
第8回NOS缶コーヒーブレイク in 安曇野 ほか

10
2013 OCTOBER

●次号は2013年11月1日発売予定です

ヒストリック・ジャパニーズ・ヴィンテージ・オートサロン

ショーの会場となったサンレアンドロ・マリーナの様子。サンフランシスコ湾に面していても、潮風のにおいはほとんど感じられなかった。午後になると空も晴れわたり「旧車を潮風に当てる」心配など、すっかり吹き飛んだ。

VINTAGE AUTO SALON BY HISTORIC JAPANESE CAR GATHERING

アメリカの日本車愛好家たちの集い

●2013年8月10日／アメリカ・カリフォルニア州サンレアンドロ市マリーナ

TEXT & PHOTO : HISASHI MASUI/ 増井久志

サンフランシスコからクルマで30分の距離にあるサンレアンドロ市。サンフランシスコ湾を望むこの地のマリーナで、昨年7月の「ベイライン」（本誌VOL153掲載）に続くイベントが行われた。今回のイベントはメリーさんことダイアン・クレイ・ウェスリーさんに加えて、特別ゲストとして日本から招かれたロッキーオート代表、渡辺喜也さんの参加が目玉だった。

この日はカリフォルニアの真夏の太陽も寝坊したのか、空に厚く雲の広がる朝から始まった。灰色の風がやんわりと吹きぬけていく中を、混雑を避けるために7時から10時までたっぷり時間をとり、参加車両が順次会場にロールイン。遠方からグループ参加のキャラバン隊が1つ、また1つと到着するのをじっくりと見物する。なかでも、トヨタスポーツ800のような珍しいクルマが姿を見せると、すぐに参加者の取り巻きができ、入れ替わり立ち替わり写真を撮っていた。今回のイベントでは参加資格は1989年式のハチマル車の範囲まで広げられて、事前登録の数は100台を超えた。

午前中のうちに十分なにぎわいを見せていた会場に、11時になるとゲストの1人、ダイアンさんが登場。それに少し遅れて2人目のゲスト、渡辺さんが到着すると、2人を歓迎するかのように空に太陽が顔を出し、会場も一気に明るくなった。ダイアンさんは早速テントの下の席に着いてサイン依頼に応じたのに対して、クルマを見ながら会場を歩き始めた渡辺さんの回りにもすぐに人が集まり、サインを求めたり、自分のクルマの話を熱心に語ったりしていた。アメリカにもロッキーオートの作品のファンは多く、渡辺さんに会うことはそんなファンにとってはまさに夢にまで見たことだったのだ。当の渡辺さん本人も長旅にもかかわらず「疲れてなんかいないよ。何でもやるから言ってね」とサービス精神を発揮。

午後には、抽選会や渡辺さん選定による賞の表彰が行われ、にぎやかだった土曜日は無事に終わった。

会場に入ってきたこのクルマを見て、目が驚いて心が戸惑った。76年式ホンダ・シビックをオープンカーに改造にして、さらに別の1台をトレーラー（牽引車）にしたのだ。なんだか、パンダの親子を見ているように気分になった。

今回のショーに参加した最も希少な珍しいクルマの1つ、初代日産シルビア。オーナーによれば、同型のクルマはアメリカ国内に3台しかないとのこと。右ハンドル仕様のこの個体はU20型エンジンを積んでいた。

トヨタスポーツ800が会場に入ってくると、すぐに参加者の取り巻きができた。この左ハンドル仕様の個体は沖縄から輸入された車両だそうだ。

今回も初代セリカの集団が目立っていた。最近は特にクーペの人気が高いようだ。そんなトヨタ勢の勢いに、この日はダットサンは押され気味に見えた。

ダットサンのピックアップトラックはいつでも参加数が多いが、この日そんな中で目立っていたのが、このトヨタ・ハイラックスと三菱トライトン（日本名フォルテ）のピックアップ。ハイラックスは日本国内仕様と同じようにベッドにフックがあったが、G63B型シリウスエンジンを搭載するトライトンはダッジ・ラム50として北米市場でOEM販売されていたためか、フックなしなのが興味深かった。

いい具合にやれた感じのオリジナル塗装がとても好感だった78年式マツダGLCスポーツ。オリジナルだった1.4ℓレシプロエンジンは、13B型ロータリーエンジンに換装されていた。

大のロータリーエンジンファンで、マツダRX3のオーナーだというホゼ・ロドリゲスさんは、ロータリーエンジンを搭載した2輪車、76年式スズキRE5でこの日のイベントに参加。30年も探し続けたというRE5、この個体は計器の仕様変更を受けるために新車のうちに日本へ送り返されたそうで、「2度も太平洋を渡って来たんだよ」と楽しそうに話してくれた。

セリカだけでなく、今回はカローラの多さが目を引いた。オリジナル、スープアップ、モディファイ、レストア前、と状態はそれぞれなのが面白かった。

メリーさんことダイアンさんとロッキーオート渡辺さんの対面がアメリカで実現！ ケンメリ・スカイラインつながりの感激のツーショットだ。2人とも終始にこやかに楽しんでいた様子だった。

本誌VOL154に登場してくれたジョーイ・ガシアさんのショップ「パフォーマンス・オブ・ションズ」のE70カローラ・リフトバックのラリー仕様車。鮮やかな色で目を引いた。

本誌VOL148に登場のビルエッタさん親子は、ダットサン・ピックアップで参加。小さなテントを立ててテーブルを並べ、スワップミートのお店を開いていた。

渡辺さんが会場を歩き始めた途端、陽気な女性が近寄ってTシャツにサインして欲しいと頼んでいた。テントの席に着いた渡辺さんに、思わずL型エンジンのカムカバーを持ち込んでサインを依頼する人もいた。

会場に渦巻いていた人の流れから離れて一休み。見物と写真撮影を午前中に済ませた人たちが多いのか、午後になるとクルマの後ろでのんびりと過ごす人が増えていた。